

学校教育調査Cの概要

1 調査目的

「岩手県学校教育調査」は、岩手県の学校教育に関する状況について、さまざまな立場の方の意識の実態を定期的に調査し、現状の把握及び今後の教育振興等に資するための基礎資料を得ようとするものであり、平成13年度から平成16年度までの4年間の長期計画で行っている。

本年度実施予定の調査Cは、平成14年度に実施した調査Aを受けて実施する児童生徒及び保護者の生活面を中心とする実態調査及び意識調査である。内容項目として、基本的な生活の実態とともに、完全学校週5日制や読書推進等、教育施策に関連する項目のほか、パソコン・携帯電話の所有等に係る項目や児童生徒の事件事故等に対する危機意識に係る項目等、教育を取り巻く社会的な状況を踏まえた項目を加えることにより、本県の児童生徒及び保護者の実態を幅広く把握しようとするものである。

2 調査協力依頼校

(1) 調査協力依頼校は、県内12の教育事務所管内に設置されている38の小・中学校、12の高等学校、16の盲・聾・養護学校中学部とした。

(2) 小・中学校の調査協力依頼校は、12教育事務所を単位とし、学校教育調査A及びBと基本的に市町村が重複しないよう、また学校規模等に配慮して抽出した。高等学校の調査協力依頼校は、学校の特色等による差異が結果に与える影響を小さくするため、調査Aと同一校とした。また、盲・聾・養護学校の調査協力依頼校は、対象数が少ないことから、調査Aと同様に県内すべての盲・聾・養護学校とした。

3 調査対象

校 種	学校数	児童生徒数	保護者数	学級担任	合 計
小 学 校	23	745 (5年)	745 (5年)	378	1,868
中 学 校	15	769 (2年)	769 (2年)	168	1,706
高 等 学 校	12	399 (2年1学級)	399 (2年1学級)	216	1,014
盲聾養護学校 (中学部)	16	300	300	646	1,246
合 計	66校	2,213名	2,213名	1,408名	5,834名

4 調査内容

調査Cは、児童・生徒の意識や学校、家庭における生活の実態などに焦点を当てて実施する。具体的内容は別紙「質問紙調査票」のとおりである。

5 調査方法

(1) 調査は、小・中学校にあっては、教育事務所、市町村教育委員会を通じて依頼することとし、県立学校にあっては、直接依頼するものとする。

なお、調査結果の回収も同様の方法とする。

(2) 調査用紙は予備分も配付するが、不足の場合は増刷して使用することとする。

(3) 回答は、個人に配付した調査票に直接記入することとする。

(4) 保護者への調査票の配付及びその回収方法は、各学校に一任することとする。

6 調査期間

平成16年8月30日(月)～9月24日(金)までの4週間

【集計・分析方法】

各対象別（児童・生徒、保護者、学級担任）、校種別（小学校、中学校、高等学校、盲・聾・養護学校）に、当教育センターにおいて集計を行い、グラフを作成し、分析を行った。
分析は、質問項目別集計及び校種・対象別クロス集計（質問項目抽出）において行った。

【報告書の内容】

分析編

1 質問項目別

各校種別（小学校、中学校、高等学校、盲・聾・養護学校）における共通の質問項目の結果を、一つのグラフに統合し、分析したもの

* 分析ページの最後に、「関連する質問項目とのクロス集計」及び「同じ対象や異なる対象における質問項目」を表記し、比較・参考の便を図った。

2 クロス集計

同一対象内において、二つの質問項目においてクロス集計を行い、グラフ化して分析したもの

* クロス集計は、各対象別、校種別に行い、抽出した質問項目（質問項目別集計の結果から、関連する質問項目との関係を見ることによって、より実態に迫ることができるのではないかと判断した質問項目）で行ったため、その数は対象及び校種により異なる。

集計編

・集計表：各対象別、校種別に質問項目を集計し、グラフ化したもの

資料編

・質問紙

【報告書の構成】

学校教育調査Cの概要

調査結果の概要

分析編

・児童・生徒

設問ごとの集計・分析

クロス集計・分析（校種ごとに抽出した質問項目）

・保護者

設問ごとの集計・分析

クロス集計・分析（校種ごとに抽出した質問項目）

・学級担任

設問ごとの集計・分析

クロス集計・分析（校種ごとに抽出した質問項目）

集計編

資料編

児童生徒、保護者、学級担任における校種ごと、設問ごとに集計したグラフ

学校教育調査C 調査項目

児童・生徒		保護者		教職員(学級担任・副担任)				
生活時間等	Q 1 起床時間	Q 1 子供と一緒にする家事をする	最近の子供の状況	Q 1 朝から疲労感	Q 2 愛情不足の子			
	Q 2 自分で起きるか					Q 3 自己中心的な子		
	Q 3 朝の疲労感						Q 4 厳しく叱られる子	
	Q 4 不登校							
	Q 5 朝食							
	Q 6 就寝時間							
	Q 7 平日のテレビ視聴							
運動	Q 8 運動が好きか							
	Q 9 苦手な運動							
体験	Q 10 体験の有無 木登り、日の出を見る等							
	所有	Q 11 パソコン所有 パソコンによる掲示板等の利用経験 携帯電話所有 携帯による掲示板等の利用経験 携帯による出会い系サイトアクセス経験			Q 5 本音の話し合い			
				Q 6 発信する情報の受止				
				Q 7 親子の対話				
				Q 8 自分の子だけ見る				
				Q 9 参観日の私語				
読書	Q 12 本の購入	Q 4 保護者の読書好き	読書	Q 18 一緒に読書				
	Q 13 本を読む	Q 5 本の内容で会話						
	Q 14 マンガ購入(月)	Q 6 幼児期の読み聞かせ						
	Q 15 マンガを読む							
学校学級関係		Q 7 行事等への参加	学級経営 開かれた学校	Q 12 学級の乱れを感じる事				
		Q 8 学校への満足度 人間的な成長		Q 13 乱れた学級の姿 教科書を出さない				
		Q 9 豊かな感性と 優しい心		Q 14 ケンカが絶えない				
		Q 10 基礎的な学力		Q 15 話を聞かない				
		Q 11 学習指導		Q 16 決まりを守らない				
		Q 12 いじめへの対応		Q 17 先生を批判				
		Q 13 保護者の訪問		Q 19 開かれた学校 地域の人材活用				
		Q 14 方針のお知らせ		Q 20 他機関等の連携				
		Q 15 情報の双方向		Q 21 保護者経営参画				
				Q 22 教員地域活動参加				
				Q 23 評議員等の制度				
				Q 24 外部評価と公表				
		五日制		Q 16 土曜日の過ごし方	Q 16 土曜日の過ごし方	五日制		
				Q 17 参加したいもの	Q 17 子どものゆとり			
					Q 18 五日制はよかったか			
	Q 19 学力低下の心配			Q 25 学力低下の心配				
家庭生活	Q 18 家族で朝ご飯	Q 20 子供の行動の原因	家庭生活	Q 10 子供の行動の原因				
	Q 19 決められた手伝い							
	Q 20 よくやる手伝い	Q 21 躰や教育の悩み						
	Q 21 家族の会話の内容	Q 22 躰の責任		Q 11 躰の責任				
	Q 22 家族の理解度	Q 23 家族の理解度						
	Q 23 家庭生活の満足度	Q 24 家庭生活の満足度						
	Q 24 よくほめるか	Q 25 よくほめるか						
	Q 25 理由を聞き叱る	Q 26 理由を聞き叱る						
職業	Q 27 やってみたい仕事		悩み	Q 26 悩み 児童生徒との時間				
	Q 28 将来の仕事像	Q 28 将来の仕事像		Q 27 問題を持つ子				
				Q 28 学力差				
危機	Q 29 事件等への危機意識	Q 29 事件等への危機意識	み	Q 29 多忙、家で仕事				
	Q 30 決まりの遵守	Q 30 決まりの遵守		Q 30 人間関係				

* 盲・聾・養護学校の生徒及び教職員の質問項目は、上記と若干異なる部分がある。

* 網掛けは、関連性のある質問項目を示す。